

3. 受験にあたっての注意事項

4 試験当日に持参するものおよび使用許可物件について

(1) 持参するもの

- ①受験票（写真貼付のこと）
- ②一般入学試験要項（本冊子） ＊試験中には使用しませんが、持参をお勧めします。
- ③筆記用具（詳細は下記「使用許可物件」参照）
- ④時計（詳細は下記「使用許可物件」参照）
- ⑤昼食（立命館大学衣笠キャンパス〈京都〉、びわこ・くさつキャンパス〈草津〉および大阪いばらきキャンパス〈大阪茨木〉試験場では食堂を利用することができます。）
- ⑥志望理由書 ＊「センター試験+面接」方式（グローバル教養学部）の受験生のみ

(2) 使用許可物件

試験中に使用を認めるもの	試験中に使用を認めないもの〈例〉
<ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具 HBの黒鉛筆もしくはシャープペンシル 消しゴムとケース 鉛筆削り（電動式除く） シャープペンシルの替芯(HB)とケース ・時計(携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、キッチンタイマー、ストップウォッチなどを時計として使用することはできません。ストップウォッチ機能の使用は認めません。また、アラーム機能は必ず解除すること。マナーモードも認めません。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・マーカー、カラーペン、色鉛筆、万年筆、ボールペン、筆箱など ・定規、コンパス、下敷き、グラフ用紙など ・そろばん、電卓、翻訳機、計算機およびそれらの機能を持つ時計、ストップウォッチなど ・携帯電話等の通信機器、ウェアラブル端末、電子辞書、ICレコーダーなど ・耳栓、サングラスなど

(3) その他

- ①試験教室内では携帯電話・ウェアラブル端末等は必ず電源を切ってください。各時限で電源が OFF になっているかを確認します。
- ②試験時間中の飲食は禁止します。ペットボトルなどを机の上に置くことはできません。
- ③試験当日は、文字や地図が印刷されている衣類は着用しないでください。着衣に英単語や漢字などの文字や地図が印刷されている場合、脱衣・裏返しなどの指示をする場合があります。
- ④以下のものは、条件付きで試験中に使用することを許可します。なお、使用の際には、不正行為防止のため、監督者が点検することがあります。
 - ・ティッシュペーパー……袋から取り出した状態で机の上に置いておくこと。
 - ・マスク・帽子……写真照合の際には外すこと。
 - ・ハンカチ・ハンドタオル……試験開始前に机の上に置いておくこと。なるべく無地で、文字や地図が印刷されていないもの。
 - ・ひざ掛け・座布団……なるべく無地で、文字や地図が印刷されていないもの。
 - ・薬・目薬……試験開始前に机の上に置いておくこと。服用・使用の際は挙手のうえ、監督者立会いのもとで行うこと。

5 試験時間中の諸注意

- ①試験時間中(説明開始から終了後の退出まで)は、試験監督者、係員の指示に従ってください。従わない場合は退室させることがあります。
- ②第1時限(「経営学部で学ぶ感性+センター試験」方式は第3時限、「センター試験+面接」方式(グローバル教養学部)・「センター試験+面接」グローバルコース方式(情報理工学部)は指定された通り)の集合時刻までに机の上に受験票を置いてください。「受験票(写真貼付)」は回収します。回収後および第2時限目以降は、「受験票控」を机の上に置いてください。また、「受験票控」は合格発表時の受験番号控となりますので、大切に保管してください。
- ③試験開始までに試験問題・解答用紙を配付しますが、開始の合図まで開いてはいけません。
- ④受験にあたっての諸注意が問題冊子の表紙(学部個別配点方式の「理科」は別紙)に記載されています。試験開始までに、必ず熟読してください。
- ⑤学部や入試方式によっては、文系学部の「国語」「選択科目」や理系学部の「理科」において科目指定や科目選択の制限がある場合があります。出願前に必ず確認し、試験の際にも必ず問題冊子の表紙を確認し、間違いのないように注意してください。間違えた場合は、受験が無効となります。
- ⑥時限ごとに「写真照合」を行います。「写真照合」の際、本人と判断しづらい場合は、試験終了後に写真撮影を行うことがあります。
- ⑦マークシート解答用紙にはあらかじめ「座席番号」が印字してあります。配付されたマークシート解答用紙が自分のものであるかを必ず確認してください。
- ⑧試験時間中の退室は原則として認めません。試験中に気分が悪くなった場合には、一時退室を許可することがありますが、その間の試験時間は保障しません。
- ⑨解答用紙は試験終了後、監督者の指示に従って必ず提出してください。1科目でも解答用紙を提出しなかった場合は、受験を無効とします。

6 不正行為

(1) 次のことをすると不正行為になります。不正行為を行った場合は、それ以後の受験はできなくなり、すでに受験した当該年度の入学試験も含め「全ての科目の成績を無効」とします。また、それ以後の当該年度の受験は認められません。なお、入学検定料は返還しません。

- ①志願者情報、受験票、解答用紙へ故意に虚偽の記入(受験票に本人以外の写真を貼ることや解答用紙に本人以外の氏名・座席番号を記入するなど)をすること。
- ②カンニング(試験の科目に関するメモやコピーなどを机の上等に置いたり見せたりすること、参考書の内容や他の受験生の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど)をすること。
- ③他の受験生に答えを教えたりカンニングの手助けをしたりすること。
- ④配付された問題冊子を、その試験時間が終了する前に試験教室から持ち出すこと。
- ⑤解答用紙を試験教室から持ち出すこと。
- ⑥試験開始の指示の前に、問題冊子を開いたり解答を始めたりすること。
- ⑦試験時間中に、定規、コンパス、電卓、そろばん、グラフ用紙等の補助具を使用すること。
- ⑧試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類を使用すること。
- ⑨試験終了の指示に従わず、筆記用具を持っていたり解答を続けたりすること。

(2) 上記(1)以外にも、次のことをすると不正行為となることがあります。指示等に従わず、不正行為と認定された場合の取扱いは、(1)と同様です。

- ①試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等の電子機器類や、定規、コンパス、電卓等の補助具、参考書をかばん等にしまわず、身に付けていたり手に持っていたり机の上や下(棚)に置いておいたりすること。
- ②試験時間中に携帯電話や時計等の音(着信・アラーム・振動音など)を長時間鳴らすなど、試験の進行に影響を与えること。
- ③試験に関することについて、自身や他の受験生を利するような虚偽の申し出をすること。
- ④試験場において他の受験生の迷惑となる行為をすること。
- ⑤試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- ⑥その他、試験の公平性を損なうおそれのある行為をすること。

7 マークシート記入上の注意事項

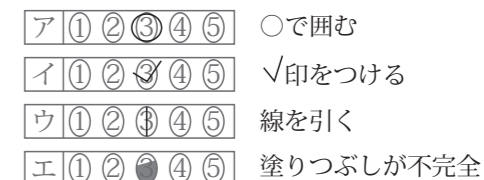
①HBの黒鉛筆(シャープペンシルの場合は0.5mm以上の芯のもの)で、記入枠の中の「だ円」を完全に黒く塗りつぶしてください。マークが不完全な場合、解答が正しくても正解と判定されませんので注意してください。

〈正しい例〉



たとえば「3」と解答したい場合は、左記のように解答欄の③を完全に黒く塗りつぶしてください。

〈悪い例〉 下記のような記入はしないでください。



○で囲む
√印をつける
線を引く
塗りつぶしが不完全

②一度記入したマークを訂正する際は、消しゴムで丁寧かつ完全に消してから、記入し直してください。下記のように×印を記入しても訂正したことにはなりません。



③解答用紙は折り曲げたり、破ったり、汚したりすることのないよう丁寧に取り扱いってください。

8 その他の注意事項

(1) 受験環境

- ①試験時間中に日常生活騒音等(監督者の巡視による足音・監督業務上必要な打ち合わせなど、航空機・自動車・風雨・空調の音など、周囲の受験生の咳・くしゃみ・鼻をすする音など、携帯電話や時計等の短時間の鳴動、周囲の建物のチャイム音など)が発生した場合でも救済措置は行いません。
- ②試験時間中に携帯電話や時計などの音・振動が発生し、発生源のかばんなどが特定できた場合、持ち主の同意なく監督者が試験教室外に持ち出し、試験本部で保管することがあります。
- ③机、椅子、空調などの試験会場(試験教室)による条件の違いは一切考慮しません。
- ④他の受験生が迷惑と感じると判断した場合、別室受験を求めることがあります。